



展示室開室スケジュール

●令和7年度の年間展示スケジュールおよび講座・催し物スケジュールは、当館のホームページにてご覧いただけます。

3F	5月	6月	7月
総合展示室1 土佐藩の歴史	第1期～5月6日(火・祝) 5月16日(金)～	第2期	～7月21日(月・祝)
総合展示室2 大名道具と土佐の文化	4月25日(金)～	第1期	～6月30日(月) 第2期 7月11日(金)～9月23日(火・祝)
特別展示室 企画展	高知の地震災害史 ～紡がれた記憶と記録～ 3月20日(木・祝)～5月25日(日)	お金がないから藩札・私札 ～土佐と四国の地域通貨～ 6月27日(金)～	～8月31日(日)

城博講座

5月 10日(土)

古文書講座

「古文書解説 実践篇」

第1回 前年度の復習

講師／藤田雅子（当館歴史担当学芸員）

6月 14日(土)

歴史講座

「土佐の社会と災害」

第1回 江戸時代の大雨・洪水・暴風雨

講師／横山和弘（当館歴史担当学芸員）

21日(土)

美術工芸講座

「見る技術～はじめての日本美術②～」

第1回 ファッションから読み解く浮世絵

講師／丸塚花奈子（当館美術工芸担当学芸員）

28日(土)

日本の文化講座

「人生儀礼（通過儀礼）」

第1回 人の一生にまつわる行事と儀礼

講師／橋本章氏（京都府京都文化博物館 学芸課長）

7月

12日(土)

古文書講座

「古文書解説 実践篇」

第2回 解説に挑戦①

講師／藤田雅子（当館歴史担当学芸員）

19日(土)

保存修復講座

「文化財と虫のおはなし」

第1回 文化財を食べる虫とその生態

講師／田井東浩平（当館保存担当学芸員）

会場／当館1階ホール

時間／10:00～11:30

定員／80名

参加費／無料

申込み／不要（当日先着順）

お得な年間観覧券が オススメです

城博の展示は、年間5回の企画展に加えて総合展示室2室も約2ヶ月毎に展示替え。年間観覧券があれば入館もスムーズ。ぜひご利用ください。

年間観覧券／2,000円
※有効期限は購入日から1年間

各種会員制度も ご利用ください

友の会 年間観覧券と様々な特典がついた会員制度です。

年間 3,500円

情報会員 城博ニュースのほか、展示や行事・催し物などのお知らせをご自宅にお送りします。

年間 500円

友の会、情報会員の
詳細はこちら



開館時間 9:00～18:00（日曜日は8:00～18:00） ※展示室への入室は閉館30分前まで

休館日 年末（12月26日～31日） ※展示室の開室スケジュールはホームページをご覧ください

観覧料 ◆500円(400円) ※()は団体20名以上の料金
◆企画展開催期間中・・・800円(640円)
◆高知城とのセット券 ※有効期限は当日限りです
〈当館企画展開催期間中〉1,040円 〈その他の期間〉800円
◆高校生以下は無料

交通アクセス ◆お車 高知自動車道高知ICから約15分、一般来館者用の駐車場はございません。高知公園（高知城）駐車場など周辺の有料駐車場をご利用ください。※障害者用駐車場（2台）あり
◆JR JR高知駅からとさでん交通路面電車（はりまや橋方面行き5分）はりまや橋下車にて乗り換え、高知城前下車、徒歩2分
◆飛行機 高知龍馬空港から空港連絡バスにてはりまや橋下車、徒歩約20分

高知県立
高知城歴史博物館

（指定管理者：（公財）土佐山内記念財団）

〒780-0842 高知市追手筋2-7-5
TEL.088-871-1600
FAX.088-871-1619

高知城博

検索



発行日／令和7年(2025)5月12日 編集・発行／高知県立高知城歴史博物館 印刷／共和印刷株式会社

高知県立 高知城歴史博物館 情報誌

Volume 29 2025 夏

城博ニュース

●企画展

「お金がないから藩札・私札

—土佐と四国の地域通貨—

●総合展示室 ピックアップ
●城博コレクションの名品・逸品「迫田鉄五郎書状」
●活動レポート 初開催「出張ジョーハク」
開館8周年「城博の日」

●展示室開室スケジュール
●城博講座 開催情報

四国13藩の藩札と土佐の私札が集結
この世に一つしかない逸品も！

企画展

藩札・私札

土佐と四国の地域通貨

令和7年(2025年)
6月27日(金)～8月31日(日)

関連行事

① 記念講演会

地域のなかの 銭貨と紙幣

—江戸時代の人びととお金の物語—

〈日時〉8月2日(土)
14時～15時30分

〈講師〉古賀 康士 氏
同志社大学経済学部准教授

〈定員〉80名(先着順)

〈会場〉当館1階ホール

② 学芸員講座

土佐と四国の 地域通貨

〈日時〉7月13日(日)
14時～15時30分

〈講師〉高木 翔太
当館学芸員

〈定員〉80名(先着順)

〈会場〉当館1階ホール

③ お金のタイム トラベルツアー ～お金のむかしと今～

当館と日本銀行高知支店を見学する
ツアー。知られざるお金の歴史や現代
のお金のすごい技術について知ろう！

〈日時〉7月30日(水)・8月1日(金)
いずれも10時～12時

〈共催〉日本銀行高知支店

〈対象〉小学校4年生～6年生

〈定員〉親子10組(先着順)

〈集合場所〉当館1階ホール

④ 学芸員による 展示解説会

〈日時〉7月5日(土)
7月20日(日)
8月16日(土)
いずれも10時30分～11時

〈会場〉当館3階特別展示室

〈参加費〉無料
(要観覧券/申込不要)

申込方法

①・②・・・6月4日(水)9時受付開始。当館に電話かFAXで氏名・電話番号をお知らせください。
③・・・7月1日(火)9時受付開始。当館に電話かFAXで参加日時・氏名・電話番号・参加者の
学年・同伴人数をお知らせください。



ジョーハクLINE公式アカウント



最新情報やオススメ情報などをお届け中！

お金がないから 藩札・私札

土佐と四国の地域通貨

令和7年（2025年）

6月27日金 》 8月31日日



買物しすぎてお金がない、旅行に行ってお金がないなど、出費が多くてお金がないといった経験は誰しもあるかと思います。江戸時代もお金を使って所持金がなくなるとことはもちろんありますが、それよりもそもそも流通する“お金がない”といった状況が生じていました。流通貨幣の不足、度重なる災害などによる藩財政の困窮など、“お金がない”といった問題に接した時、江戸時代の人びとは藩札や私札といった地域通貨を発行することで、経済を回していました。本展では、土佐の藩札と私札を中心に、四国各藩の藩札や近代貨幣までを広く展示し、お金の歴史を紹介します。各紙幣のデザインの違い、発行理由などを知り、展示資料の中からお気に入りのお金を見つけてください。

四国の藩札・私札を数多く所蔵する古紙幣コレクター
刈谷茂正氏所蔵の「刈谷コレクション」を展示します。

画像：①②③④⑤刈谷コレクションより

資料紹介

最初の高松藩札



④高松宝暦札 銀100目
宝暦7年(1757)

四国で現存する最古の藩札
9分は現存唯一とも



③徳島延宝札 銀9分
延宝8年(1680)

高知城下から離れた山間部
でも多種の私札が発行



②土佐私札 梶原村明神弥平 八銭5分
天保7年(1836)

土佐らしい鯨を描いた藩札



①高知藩会計司札(鯨札) 金5両
明治3年(1870)

四国13藩の中で
最高額面の金札



⑤大洲会計局札 金10両
明治初期(1868-1871)

高知県士族の銀行員としての覚悟！
銀行のお金を横領したら弁償して**自刃**すると誓約した血判書



⑥第三十七国立銀行血判誓約書 四国銀行所蔵 明治19年(1886)

総合展示室 展示情報

歴史と美術、2室の総合展示で山内家資料の魅力を満喫

総合展示室 第2期 5月16日(金)～7月21日(月・祝)

ピックアップ 南蛮帽

土佐藩の歴史

初代藩主山内一豊所用の南蛮帽を展示します。南蛮文化の影響を垣間見られる本資料は必見！3階展望ロビーでは体験用のレプリカもご用意していますので、あわせてお楽しみください。



総合展示室 第1期 4月25日(金)～6月30日(月)

ピックアップ 容堂の箱根旅

大名道具と土佐の文化

明治4年(1871)、政界を引退した山内容堂(豊信、15代土佐藩主)の箱根旅行。水墨画と漢詩で綴られた旅行記を紹介します。



城博コレクションの
名品逸品

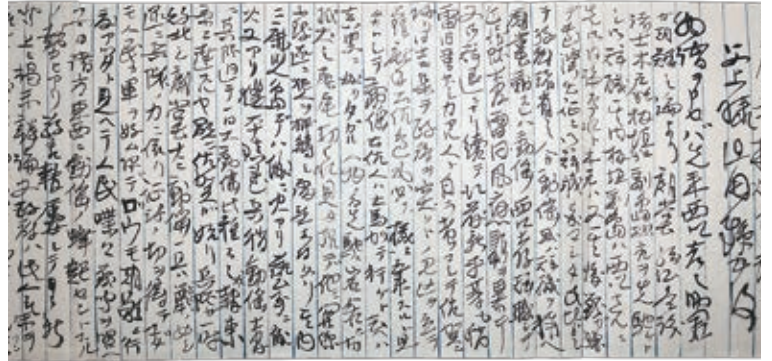
古文書をはじめとした歴史資料や歴代藩主の御道具など6万7千点の土佐藩・山内家資料を核とした土佐藩・高知県ゆかりの収蔵資料の中から学芸員がオススめの名品や隠れた逸品をご紹介します。

迫田鉄五郎書状

父上様(助左衛門)宛
明治八年十月十七日付

「土佐人ハ大馬加デ行ケト云ヘハ真黒ニ成リタガル人物ニ而先馳ニ岩倉ニ切掛」と手紙に記しているのは、明治初期に軍人として活躍した鹿児島県士族の迫田鉄五郎です。読者の多くは「土佐人」でしよから、お叱りを受けないよう、鉄五郎の代わりに弁明しつつ、こちらの資料を紹介します。

手紙の大半の内容は、軍務が忙しいといった近況報告です。忙しくて兵書を読む暇がない、手紙などは雪隠(トイ)しで確認しているときまで書いています。そして、「征韓論」後の西郷隆盛や板垣退助の辞職、江藤新平の佐賀の乱、台湾出兵による木戸孝允の辞職など、政府内の分裂について言及。冒頭の一文は、佐賀の乱の箇所です。書かれており、高知や鹿児島が佐賀に伴って挙兵するのではないかとという心配があつての土佐人の性格です。どうして鉄五郎がこのような土佐人を捉えたのかというと、「岩倉ニ切掛」がヒントになります。



これは、明治七年一月十四日に岩倉員視を高知県士族の武士熊吉等が襲撃した「赤坂喰違の変」のことです。つまり、暗殺をする土佐人、歯止めがからなくなつて挙兵・暴走する土佐人を「大馬加」と思っているのです。

開軍の登場といった交通の変化、米価の高騰や牛肉の普及などにも言及しており、ひとりの軍人がみた明治初期の日本の世相を伝える資料集です。興味のある方はぜひお手に取ってみてください。

資料学芸課学芸員 高木翔太

活動レポート

初開催「出張ジョーハク」

高知城の麓に立地する当館には、県内外から日々多くの方がお越しになります。しかし、東西に長い高知県では、遠方にお住まいのため来館が容易でない方も少なくありません。

当館では、より多くの県民の方に高知の歴史や当館の活動に親しんでいただくため、催事「出張ジョーハク」を始めました。その内容は、遠隔地の文化施設を会場に、当館職員が講座やワークショップを行うもので、2月23日(日)の第1回は黒潮町の「大方あかつき館」で開催しました。

黒潮町は、発生が懸念される南海トラフ地震で甚大な被害が想定されており、防災への取り組みが活発な地域です。一方、当館では3月より企画展「高知の地震災害史」を開催予定で、同町内から出品史料もお借りしていたことから、展示の広報も目的に据え、初回は同町への出張となりました。

催事の当日、「黒潮町における南海トラフ地震の歴史」と題した講座では、担当学芸員より過去の地震と津波の被害、その教訓についてご紹介しました。その後、役場の方のご協力のもと、会場近くの津波避難タワーと津波碑文の見学も行いました。他にも、山内家資料から地元の歴史を紐解く「地域講座」、桃の節句にあわせた「貝合わせづくり」、甲冑や刀のレプリカを装着できる「武士の装い体験」などを行い、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方にご参加いただきました。

参加者の過半数が当館を利用されたことがない方でしたが、「次は博物館に行きたいです。」とお声をいただき大変嬉しく感じました。遠方の地域の皆さんと交流できたことで、県立博物館の役割や活動について、改めて考える機会となりました。

広報・地域連携担当 企画員 筒井聡史

地域連携

開館8周年「城博の日」

当館は、令和7年3月3日に開館8周年を迎えました。これにあわせて3月8日、9日の2日間にわたり、恒例行事「城博の日」を開催しました。

高知城の麓、毎年、華やかな春の足音が聞こえはじめる頃に迎える「城博の日」。当日はより多くの方々に城博の魅力や活動に親しんでいただくこと、職員総出で展示解説、記念講座、バックヤードツアー、歴史資料の修理体験や取扱い体験、子ども向け博物館探検、武士の装い体験、さらには国史跡山内家墓所の特別公開などの特別企画を実施しました。また、例年、地域の文化芸術団体の活動を紹介する機会にもしようとミュージアムコンサートや伝統芸能実演会を開催しています。今年は土佐中村一條太鼓、高知交響楽団、立山神社棒術獅子舞保存会の皆さまにコンサートやステージを披露していただき、年に一度の周年行事は多くの来館者でにぎわいました。

昨今、高知では外国クルーズ船寄港やチャーター航空機運航等が増加しており、高知城とともに当館でも多くの外国人観光客の姿を目にするようになりました。「城博の日」当日もこうした光景は見られ、開館から8年の月日を経た当館の大きな変化の一つとして大変印象的でした。

当館では、10周年という大きな節目に向けて、引き続き多彩な展示や講座・行事等をはじめ、さまざまな事業・活動を展開してまいります。今年度も皆さまのご来館、ご参加を心よりお待ちしております。



総務企画課 広報 大保和巳